

屏風絵びょうぶえで
よみがえる
室町の華

特別展

将軍家の襖絵ふすま

Special Exhibition

Fusuma Paintings
in the Shoguns' Residence:

Muromachi Splendor
Seen Through Folding Screens

室町時代（1336～1573）の文化は、能や狂言・茶の湯・生け花など、今日も息づく芸能の多くがこの時代に生まれたことからわかるように、現代日本文化の原点というべきものです。そして、室町文化の中心に位置するのが京都の室町幕府、足利将軍邸です。

将軍邸を構成する建築の中でとくに重要なのが、人々が集まって能・狂言を鑑賞し、連歌会や茶会を催した、会所かいしよと呼ばれる建物です。室町文化の象徴ともいえる会所の襖は、将軍家の御用絵師である周文しゅうぶん（生没年不詳）をはじめとする、当代を代表する画家の絵によって飾られました。

残念ながら、これらの襖絵はすべて失われ、現在、目にすることはできません。しかし、残された文献から、会所の襖にどのような画題の絵が描かれていたかを知ることができます。また、襖絵と画面の規模と形式がごく近い屏風絵によって、それを復元的に想像することも可能です。

本展覧会は、足利将軍邸の会所襖絵における典型的な画題を選び、室町後期から江戸時代に制作された屏風絵を集め、一堂に展示することによって、〈将軍家の襖絵〉の世界をよみがえらせるものです。室町絵画の核ともいえるべきそれら襖絵が、日本絵画史において果たした役割の大きさについて再考する機会にもなるでしょう。

2022年 11月3日(木・祝)～12月4日(日) 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM



序章

足利将軍家の絵画 —唐絵と和製の唐絵—

※会期中、展示替えがあります。



国宝
うづらず りあんちゆう
鶉図 李安忠〔伝〕
1幅 絹本着色
中国・南宋時代 12～13世紀
根津美術館蔵

秋の野を歩む鶉。自然の一角を切り取ったかのような臨場感に富む。北宋末期から南宋初めに活躍した画院画家・李安忠の作と伝える。6代将軍義教の「雑華室印」が捺されている。

前期【11/3(木・祝)～11/20(日)】のみ展示



重要文化財
ほろりとらぼくぎゆうず せつしゅうとうよう
倣李唐牧牛図(牧童) 雪舟等楊
1幅 絹本着色
中国・南宋時代 12～13世紀
山口県立美術館蔵

団扇形の枠の中の絵には「雪舟」の署名、枠外に「李塘(唐)」の文字が記される。李唐は、宋代の画院画家。足利将軍家所蔵の中国名画を集めた画帖に基づいたものものと思われる。

後期【11/22(火)～12/4(日)】のみ展示

コラム1: 会所とは

歴代の室町将軍がそれぞれの御所に設けた会所は、身分を超えて人々が集い、芸能や遊興を繰り広げた場です。そこには将軍家所蔵の唐物が並べられ、人々をもてなすと同時に、将軍家の文化力や財力をアピールしました。天皇の行幸などに際してはことに大量の唐物が飾られましたが、それらの並ぶ背後にも、襖絵があったのです。

第1章 山水荘厳 —四季山水と瀟湘八景—



重要文化財 し き さんすいずびようぶ てんしょうしゅうぶん
四季山水図屏風 天章周文〔伝〕
6曲1双 紙本墨画淡彩 日本・室町時代 15世紀
ウッドワン美術館蔵



岩塊・松樹・楼閣を中心とする構成は中国・元時代の孫君沢の作品を下敷きにしている。一方、印象的な濃墨と没骨の多用は、雪舟をはじめ周文の弟子の画風に共通する。伝説的な水墨画の名手・周文その人の作である可能性が高い。

後期【11/22(火)～12/4(日)】のみ展示

コラム2: 将軍家御用絵師・天章周文

幕府権威の再興を強く志した6代将軍義教の御用絵師であった周文は、まさに〈将軍家の画家〉と呼ぶに相応しい存在です。しかし、確実な落款のある作品が一点も無く、基準となる画風が不明なため、周文筆とされる作品は多様です。本展では、そうした「伝周文」作品の中から、新たな考察により、真筆の可能性の高い作品を提示します。

第2章 将軍の理想 —勸戒と狩猟—



りょうかいひつこうさくようざん ず かん もほん
梁楷筆耕作養蚕図巻模本（部分） 伊沢八郎 2巻 紙本墨画淡彩 日本・江戸時代 天明6年（1786）
原本：日本・室町時代 延徳元年（1489） 東京国立博物館蔵

稲作と養蚕・機織を描いた巻物。為政者に農民の労苦を教える絵で、室町将軍も中国皇帝にならぬ、南宋時代の画院画家・梁楷の作品をもとに襖絵を描いた。本作品は、梁楷原本を将軍家に仕えた相阿弥が模写したものを、さらに写した模本。

【会期中に巻替え】



だつたんじんしゅうりょうずびょうぶ しきぶ てるただ
韃靼人狩猟図屏風 式部輝忠
6曲1双 紙本着色 日本・室町時代 16世紀
文化庁蔵



中国北方、モンゴル高原に住んでいた騎馬民族の狩猟の様子を描く。この画題を襖絵に選んだのは、狩というモチーフに武士としてのアイデンティティを示すためでもあったと考えられる。

第3章 和歌世界の領有 —名所と遊樂—



あまのはしだて すま ずびょうぶ
天橋立・須磨図屏風
6曲1双 紙本金地着色 日本・桃山時代 16世紀
個人蔵

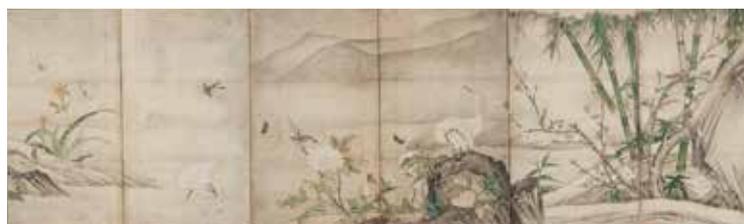


将軍家の襖絵には、やまと絵によって日本の名所も描かれた。名所を支える和歌の世界を取り込もうとしたのであるが、6代義教や8代義政の会所に天橋立図が描かれたのは、3代義満が愛した土地だったからでもあろう。

第4章 周文画の記憶 —山水画の中の花と鳥—



しき かつしやうずびょうぶ けいあい
重要文化財 四季花鳥図屏風 芸愛
6曲1双 紙本着色 日本・室町時代 16世紀
京都国立博物館



義政の東山殿会所の花鳥図襖は、南宋の画院画家・馬遠の様式で描かれた。そしてそれは、周文の花鳥図にならうものでもあった。芸愛は、義政の御用絵師・宗湛そうたんに関わりがあるとされる。 前期【11/3（木・祝）～11/20（日）】のみ展示

コラム 3: 筆様と画本

唐物が大切にされた室町時代、将軍家の周辺では、著名な中国人画家の作品＝唐絵に基づく「筆様」による制作が慣例となっていました。画家名に「様」の字をそえて「夏珪様」「牧谿様」などと称し、注文主と画家が、描かれる作品の構図と画風のイメージを共有する際に用いられました。また、参考にされる唐絵を画本と呼びました。

展示室1・2 特別展 将軍家の襖絵 一屏風絵でよみがえる室町の華一

<その他の展示作品より>

- 重要文化財 竹雀図 牧谿 [伝] 根津美術館蔵 ※※

足利義満、義教父子が愛でた「ぬれ雀」

- 倣夏珪山水図 雪舟等楊 個人蔵 ※

近年見出された雪舟画。本来は四季山水図の春の図か

- 重要文化財 観瀑図 芸阿弥 根津美術館蔵 ※

将軍家の唐物を管理した芸阿弥、現存唯一の作品

- 重要文化財 山水人物図 狩野正信 九州国立博物館蔵 ※※

中国の馬遠画にならった義政邸の襖絵のイメージ

- 重要文化財 山水図巻 芸愛 文化庁蔵 【会期中に巻替え】

将軍家秘蔵の夏珪の山水図巻と密接に関わる作品

- 四季山水図屏風 天章周文 [伝] 白鶴美術館蔵 ※

15世紀の終わりに流行した夏珪様の山水図屏風の代表作

- 住吉・近江名所図屏風 進藤尚郁 個人蔵 ※※

将軍家の襖絵は、近世の名所風俗図のルーツとなったか

- 重要美術品 石山寺時絵源氏筆筒 根津美術館蔵 ※

義政の東山殿会所「北の石山の御間」の図様を彷彿させる

- 大堰川遊覧図屏風 浮田一蕙 泉涌寺蔵 ※

足利将軍が追体験した、白河院の三船御会のご事

- 四季花鳥図屏風 狩野常信筆 板橋区立美術館蔵 ※※

周文の花鳥画の記憶を宿す、淡彩の美しい作品

※前期【11/3(木・祝)~11/20(日)】のみ展示

※後期【11/22(火)~12/4(日)】のみ展示

同時開催展

【展示室5】彫漆 一憧れの唐物一

漆を何層にも塗り重ねてから文様を彫り出す彫漆。唐物漆器として珍重され、日本で大切に伝えられてきた優品の数々をご紹介します



牡丹堆朱合子
1合 木胎漆塗

中国・明時代 永楽年間(1403~24)

根津美術館蔵

永楽帝の時代に官営工房でつくられた作品。この頃から彫漆器は朱漆のものが多くなり、製作時期とほぼ時を同じくして日本にもたらされた。

【展示室6】茶人の正月 一口切一

11月、茶の湯では茶壺の口の封を切り、この年の新茶をいただきます。茶人の正月ともいわれる口切茶事にふさわしい茶道具約20件の取り合わせ。



茶壺 銘四国猿 福建系
中国・元時代 14世紀
根津美術館蔵

茶葉を保管するための茶壺は、16世紀以降、書院などに飾って賞玩された。本作は、唐物らしい整った姿と、月のような丸い色変わりが見どころ。

展示替え

【展示室3】仏教美術の魅力 一天部一



館蔵の仏像のうち、帝釈天や毘沙門天などの天部像3軀を特集展示します。

増長天立像
1軀 木造彩色
日本・平安時代 12世紀
根津美術館蔵

秋の庭園

美術鑑賞のあとは、根津家私邸時代の面影を残す17,000㎡の日本庭園で散策をお楽しみください。例年11月末頃から紅葉が見ごろを迎えます。

※庭園入場には美術館入館料が必要です。



【表紙の作品】

上：四季花鳥図屏風(部分) 狩野松栄 日本・室町時代 16世紀 山口県立美術館蔵

中：秋冬山水図屏風(部分) 狩野元信 [伝] 日本・室町時代 16世紀 九州国立博物館蔵

下：天橋立・須磨図屏風(部分) 日本・桃山時代 16世紀 個人蔵

開催概要

展覧会名 特別展「しょうぐん け 将軍家の襖絵 ふすま え 一屏風絵でよみがえる むらまち ほな 室町の華」

日時指定予約制

新型コロナウイルス感染拡大防止策の一つとして、ご来館前に当館ホームページでの日時指定入館券の購入にご協力ください。(クレジットカード決済のみ)
(根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方もご予約ください。)

主催 根津美術館

企画協力 山口県立美術館

開催期間 2022年11月3日(木・祝)～12月4日(日)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)

休館日 毎週月曜日

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1500円(1300円) 学生 1200円(1000円)

- ・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
- ・当日券(一般1600円)も販売しております。
(ご予約の方を優先してご案内いたしますので、当日券の方は少々お待ちいただくことがあります。
混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。)
- ・2022年10月28日(金)より当館ホームページで予約を受け付けます。
- ・ご予約は1グループ4名までとさせていただきます。団体でのご来館は当分の間ご遠慮ください。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、
住所 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

お問合せ 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

Tel. 03-3400-2536(代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の
お問合せ 学芸部 広報課 所/村岡
Tel. 03-3400-2538(直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、どうぞお知らせください。
プレスリリースと画像申請書は、当館ウェブサイトの「プレス関係の方へ」からダウンロードも可能です。

次回展

企画展 「遊びの美」

2022年12月17日(土)～2023年2月5日(日) 【12月26日(月)～1月4日(水)は年末年始のため休館】



日々の暮らしに潤いを与える遊びには、教養や技芸を磨くという側面がありました。文化としての遊びの諸相を、古筆や絵画などの美術に探ります。

重要美術品 桜下蹴鞠図屏風(右隻)
6曲1双 紙本金地着色
日本・桃山時代 17世紀
根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2022.8.)